

福祉サービス第三者評価結果報告書【平成31年度(2019年度)】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 140-0001

所在地 東京都品川区北品川4-7-35御殿山トラストタワー9階

評価機関名 株式会社 医療福祉経営研究所

認証評価機関番号

機構 07 - 180

電話番号 03-5422-7938

代表者氏名 薄井 照人

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	新井 結花	経営	H0802032
	②	石川 彰子	福祉	H1401042
	③	益子 恵美子	福祉	H1401043
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	児童発達支援センター			
評価対象事業所名称	うめだ・あけぼの学園		指定番号	1352100026
事業所連絡先	〒	123-0851		
	所在地	東京都足立区梅田7-12-15		
	Tel	03-3848-1190		
事業所代表者氏名	加藤 正仁			
契約日	2019 年 7 月 1 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2019 年 8 月 19 日			
利用者調査結果報告日	2019 年 10 月 17 日			
自己評価の調査票配付日	2019 年 8 月 13 日			
自己評価結果報告日	2019 年 10 月 17 日			
訪問調査日	2019 年 10 月 21 日			
評価合議日	2019 年 10 月 21 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査の一環として、福祉分野担当の評価者による半日程度の滞在調査を実施しました。また、訪問調査の際にも、園児と同じテーブルと一緒に給食を試食させてもらうなど、サービスの現場に一定時間滞在する中で、利用者意向の把握に努めました。 ・職員の自己評価では、オリジナルの回答シートを用意し、階層別の評点分布だけでなく、より問題点を特定しやすいように集計結果をまとめて、事業所に報告しました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☐ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)発達支援・家族支援・地域生活支援の三層構造の中での子どもの育ちをトータルに支援する。 2)学際的なチームアプローチを効果的に行う。（医師・看護師・各種療法士・社会福祉士・栄養士・保育士など） 3)ノーマライゼーションの視点から、姉妹園とのインテグレーションの日常的な実践。 4)地域の福祉・教育・保健・医療機関などとのネットワークを通してエリア啓蒙・開発、地域の福祉力向上を目指す。 5)職員の資質・専門性の向上とそれぞれの自己実現や人間性の向上とワークバランスを図る。
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	（1）職員に求めている人材像や役割 個々の子どもの育ちに関する専門性と同時に人間性の向上をはかり、心身の健康のバランスにも留意する。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感） プロとしての成長だけでなく、自分自身の人間としての成長をpassionとmissionをもって目指す。

調査対象

調査は世帯単位で実施。対象園児の内訳は、0歳児2%、1歳児4%、2歳児12%、3歳児24%、4歳児28%、5歳児28%、無記入3%でした。

調査方法

調査票等は利用時に事業所経由で配布する形をとりました。回収は返信用封筒に調査票を入れ直接評価機関に郵送する方法をとり、利用者が気兼ねなく書けるよう配慮しました。

利用者総数

206

利用者家族総数（世帯）

201

共通評価項目による調査対象者数

144

共通評価項目による調査の有効回答者数

144

利用者家族総数に対する回答者割合（%）

71.6

利用者調査全体のコメント

・総合的な感想において、「大変満足」「満足」と回答した方が合わせて94%と高い満足度が示されました。
 ・個々の質問に対する回答状況を見ると、「はい」の回答が16設問中4設問にて90%以上、5設問で80%以上、5設問で70%以上と、個々の取り組みについて高い満足度が示されました。
 ・自由記述では75世帯から多くの率直な意見が寄せられています。「子どもに対して、とても愛情深く接して頂き、また、子どももそれに一生懸命応えようとしている姿を見ています、通わせて良かったなと思います」、「本人の未来を考えながら療育内容を決めて下さっていると思います」など、園に対する感謝の言葉が多数寄せられています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 事業所に通うことが、子どもの身体の機能や健康の維持・促進の役に立っているか	112	21	6	5
「はい」と回答された方は78%と満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は15%、「いいえ」と回答された方は4%、「無回答・非該当」と回答された方は4%でした。「苦手な運動も、怖がらず自信が持て、やれるようになりました」という意見や「個人別の運動療育が、月に1回だと少ないので、2回あるといい」というコメントが寄せられています。				
2. 事業所での活動は、子どもが興味や関心を持てるものになっているか	128	14	1	1
「はい」と回答された方は89%と高い満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は10%、「いいえ」と回答された方は1%、「無回答・非該当」と回答された方は1%でした。「子どもが関心を持てなくても先生が上手に促してくれるので、親はとても参考になってます」という意見や「多くの教材が園内にあるが、そのうちの一部だけを繰り返し使っている感じがする。同じものを繰り返しだと刺激に欠けるのか、つまらなそうにしていることもある」というコメントが寄せられています。				

3. 事業所に通うことが、子どもの情緒面での発達(感情のコントロールを身につける等)の役に立っているか	114	22	3	5
「はい」と回答された方は80%と高い満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は15%、「いいえ」と回答された方は2%、「無回答・非該当」と回答された方は4%でした。「あけぼのだけの影響ではありませんが、笑顔はと一つでも増えました」という意見や「食事時に席を立つなどの問題に対し、なぜそういう行動を取るかななどの説明をして頂き、ありがたかった」というコメントが寄せられています。				
4. 事業所に通うことで、子どもに社会性(人と人との関わり合いやルール等)が身についているか	108	24	6	6
「はい」と回答された方は75%と満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は17%、「いいえ」と回答された方は4%、「無回答・非該当」と回答された方は4%でした。「他の子に興味を持つようになりました」という意見や「まだ年齢的にも、なかなか難しいのかもしれませんが」というコメントが寄せられています。				
5. 子どもの様子や支援内容(体調変化時の対応含む)について、事業所と情報共有できているか	122	17	0	5
「はい」と回答された方は85%と高い満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は12%、「いいえ」と回答された方は一人もいませんでした。「無回答・非該当」と回答された方は4%でした。「やり取りが密ではないため、うめだ・あけぼのの真意がきちんと正しく伝わっていない」という意見や「相談できる時間が短く、ほぼ話せていない」というコメントが寄せられています。				
6. 家族に対する精神的なサポート(子育てに関する悩み相談や進路相談、家族間交流の機会の提供等)は役に立っているか	105	32	4	3
「はい」と回答された方は73%と満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は22%、「いいえ」と回答された方は3%、「無回答・非該当」と回答された方は2%でした。「精神的に、この学園で出会った先生に助けられていると感じます」という意見や「療育時間内にはない。交流や講演会の内容は共有してもらってます」というコメントが寄せられています。				
7. 事業所内の清掃、整理整頓は行き届いているか	134	7	0	3
「はい」と回答された方は93%と高い満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は5%、「いいえ」と回答された方は一人もいませんでした。「無回答・非該当」と回答された方は2%でした。「いつも清潔でした」という意見や「給食時の台拭き用布巾が臭いので、常に清潔なものにしてほしいです」というコメントが寄せられています。				
8. 職員の接遇・態度は適切か	133	8	2	1
「はい」と回答された方は92%と高い満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は6%、「いいえ」と回答された方は1%、「無回答・非該当」と回答された方は1%でした。「以前より改善された」という意見や「先生方も大変なのは分かるのですが、時間の経過とともに(午後等)、子どもたちへの対応が変わっている(イライラしている様子だった)」というコメントが寄せられています。				
9. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	124	6	1	13
「はい」と回答された方は86%と高い満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は4%、「いいえ」と回答された方は1%、「無回答・非該当」と回答された方は9%でした。「すぐに診療所から医師と看護師が来てくれるので、とても信頼しています」という意見や「ケガをした際の状況を把握できていないことがたまにあるなと思いました」というコメントが寄せられています。				

10. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	94	23	1	26
「はい」と回答された方は65%、「どちらともいえない」と回答された方は16%、「いいえ」と回答された方は1%、「無回答・非該当」と回答された方は18%でした。「その子の特性や学年、当時の状況を確認して、お互いの気持ちを汲み取ってくれます」という意見や「トラブルの連絡はある時もありますが、傷を作ってよく帰宅するので、目が行き届いていないとも思います」というコメントが寄せられています。				
11. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	128	13	1	2
「はい」と回答された方は89%と高い満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は9%、「いいえ」と回答された方は1%、「無回答・非該当」と回答された方は1%でした。「子どもは集中が途切れやすいが、先生は辛抱強く付き合ってください」という意見や「障害がある子も十人十色、教科書にある対応だけでは不十分なのですが、若い先生が多いこともあり、意欲は十分ですが引き出しが乏しいと感じることがあります」というコメントが寄せられています。				
12. 子どものプライバシーは守られているか	117	12	1	14
「はい」と回答された方は81%と満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は8%、「いいえ」と回答された方は1%、「無回答・非該当」と回答された方は10%でした。「ある方が発達評価の説明を、他の人がいる前で(廊下)でされたので気になったと話していましたので、デリケートな部分をお話する際は、別室等の配慮は必要かなと感じました」という意見や「今のところ、療育において秘密がないので分からない」というコメントが寄せられています。				
13. 個別の計画作成時に、子どもや家族の状況や要望を聞かれているか	135	6	0	3
「はい」と回答された方は94%と非常に高い満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は4%、「いいえ」と回答された方は一人もいませんでした。「無回答・非該当」と回答された方は2%でした。「若く熱意ある先生が担当なので、熱心にこちらの話を聞いてくれます。それは有難いことです」という意見や「些細なことでも、説明しづらい時も、私の言いたいこと(気持ち)を汲み取ってくれました」というコメントが寄せられています。				
14. サービス内容や計画に関する職員の説明はわかりやすいか	130	10	2	2
「はい」と回答された方は90%と非常に高い満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は7%、「いいえ」と回答された方は1%、「無回答・非該当」と回答された方は1%でした。「欠席についてルールが説明不足」というコメントが寄せられています。				
15. 利用者の不満や要望は対応されているか	111	18	2	13
「はい」と回答された方は77%と満足度が示されています。「どちらともいえない」と回答された方は13%、「いいえ」と回答された方は1%、「無回答・非該当」と回答された方は9%でした。「心配事や聞きたいことを相談した際、すぐにレスポンスがあり安心しました」という意見や「伝えていてメモして下さっているが、それが改善したなあと思うことは少ない」というコメントが寄せられています。				
16. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	76	22	14	32
「はい」と回答された方は53%、「どちらともいえない」と回答された方は15%、「いいえ」と回答された方は10%、「無回答・非該当」と回答された方は22%でした。「第三者委員については、しおり等で説明を受けているが、詳しい説明はなかったと思う」という意見や「第三者委員に相談することが、今のところ起こっていないので…ちょっと分りません」というコメントが寄せられています。				

I 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
	カテゴリー1
1	リーダーシップと意思決定
	サブカテゴリー1(1-1)
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている
	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している
	評価(〇〇)
	評価 標準項目
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
	評価(〇〇)
	評価 標準項目
●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している
	評価(〇〇〇)
	評価 標準項目
●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
	カテゴリー1の講評
	当園の方針は事業計画書の前文に明記され発信し続けています 「子どもとその家族が地域の中で、より安心で健やかな学び・子育て・生活等が継続的に可能となるよう地域啓蒙啓発を含む効果的で包括的な子育て支援事業をPASSIONを持って展開することがうめだ・あけぼの学園のMISSIONと位置付け、今年で43年目を迎える。」と事業計画書の前文として多職種の専門職集団でのチームアプローチを展開していることと合わせて、事業計画書の前文に明記され発信し続けています。ぶれることなく発信されている当園の存在意義や方向性を毎年この前文を見ることで職員としての使命を確認することができます。 ほぼ全職員が集まる朝礼にて共有が必要な情報について連絡、報告が行われています 地域支援部、発達支援部、サービス管理部での取り組みは業務分掌にて明確にし、各委員会、係・担当にて担当する事案について、また、部会、室会等で様々な取り組みについての検討が行われています。園内の重要案件については、園長、部長、室長による拡大サミットで検討、決定していきます。ほぼ全職員が集まる朝礼にて会議等で決定した内容や行政からの通達、その他共有が必要な情報について連絡、報告を行い周知を図っています。朝礼での伝達事項などは各部や事業ごとノートに書き留めており、業務に入る前に必ず確認することとしています。 わかりやすい言葉や図を用いて園の方針を記載した「しおり」にて保護者に伝えています 入園時に渡されるしおりには、1. 学園の理念、2. 学園の特色、などがわかりやすい言葉や図を用いて丁寧に記載されています。モンテッソーリ教育を基盤とした、個を大切に、一人ひとりの発達ニーズに合わせた支援を行っていることは、新入園児説明会でも伝えていますが、普段の療育の様子をみて頂くことが一番と考えており、2週間ほど日程を設けて各クラス2名くらいを設定しクラスの中に入っている療育参観を実施しています。レギュラーで行っていることを見て頂くことに意味があると園は捉えており、保護者の理解を得られるよう注力しています。

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー2の講評

業界の先駆者として改革、改変を行いながらMISSIONを果たすべく邁進しています

日本知的障害者福祉協会、全国児童発達支援協議会、足立区自立支援協議会、要保護児童対策協議会、学校運営連絡協議会、全国知的障害者サポート協会など、数多くの関係機関に園長をはじめ職員が参画しており、幅広く業界動向に関する情報収集のみならず検討、議論が行われています。児童発達支援の先駆者として全国的に知名度の高い当園の取り組みは、法定化されていくなど障害児福祉への大きな貢献を果たしてきています。これら様々な状況を知り得た中で当園の事業は改革、改変を行いながらMISSIONを果たすべく邁進しています。

数年先を見据えた事業構想を検討した上で単年度の事業計画の重点課題を設定しています

事業計画策定の流れは、園長、部長、室長で構成するあり方検討委員会にて数年先を見据えた事業構想を検討、確認した上で単年度の事業計画の重点課題を設定しています。また、各部でもそれぞれ計画を策定し、何に今年度取り組むのかを明確に示しています。事業を取り巻く制度が目まぐるしく変化していることから長期計画の立案より当該年度に力点を置き取り組んでいます。単年度の事業計画には随所に中期的展望が盛り込まれているため、これらを整理することで職員の中期的な展望と今年度の取り組みの理解度が向上することにつながると推察されます。

子どもの育ちを支えるための「家族」の意見を大切に取り入れています

当園では事業に関する保護者からの意見を吸い上げる一つとして、毎年「療育アンケート」を実施しています。このアンケートは記名式ではありませんが、個々の保護者がどのような意見があるのは率直にうかがえる良い機会と捉えています。また、児童発達支援ガイドラインに基づくアンケートの実施・公表も丁寧に行われています。その他、今年度の第三者評価での利用者調査は保護者からの回答率が72%と過去最高の回収率となり関心の高さが伺えます。子どもの育ちを支えるための3つの視点の一つである「家族」の意見を大切に取り入れています。

カテゴリー3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリー1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している	○ 非該当
サブカテゴリー2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当
サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー3の講評

倫理綱領は年1回、全職員で読み合わせをする機会を設け浸透を図っています

「知的障害のある人たちが、人間として尊厳が守られ、豊かな自己実現できるよう支援することが私たちの責務です」と謳われている「倫理綱領」は、生命の尊厳、個人の尊重、人権擁護、社会参加、専門的な支援の5つを規範としています。この倫理綱領は年1回、全職員で読み合わせをする機会を設け浸透を図っています。子どもも人格者であり、人として対等であること、職員はどのように子どもたちと向き合っていくのか、その人間性が問われていることを経営層は職員に対して朝礼時や面談の機会等を通して伝えています。

虐待防止マニュアルやチェックリストを用いて共通理解を促す取り組みが行われています

虐待防止に対する取り組みとして年3回、虐待防止チェックリストにて確認しています。職員の意識が薄れてしまうことを防止する意味合いで、実施回数を3回としています。また、虐待防止マニュアルは、1.虐待について、2.虐待初期対応フローチャート、3.職員自己チェックリスト(12項目)、4.児童虐待防止対応手順書に分けて作成されています。マニュアル1には「もしこう思ったら」に対し「このように考えてみる」というQ&Aも掲載しています。視点と言葉を変えることの必要性について共通理解を促す効果がある取り組みと推察されます。

当園は地域への支援もMISSIONの一つと位置付けており、積極的に活動しています

国の機関、東京都、足立区等行政や業界で開催する委員会等に参画しています。当園は地域への支援もMISSIONの一つと位置付けており、当園だけで子どもや家族を支えるのではなく、地域で支えていくことが必要である、中だけをかためていても守れない、当園を守るためにも積極的に外に出ていくことが大切と捉えています。東京都の知的障害児等療育支援モデル事業の受託、独自事業である「あけぼのクラブ」の個別療育、地域の発達支援力向上研修の実施など、当園の専門性を惜しみなく提供し、地域の子どもの福祉資源として邁進しています。

4			リスクマネジメント		5	
サブカテゴリ1(4-1)						
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる					サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
					5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる						
評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている ○非該当						
●あり ○なし 2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている ○非該当						
●あり ○なし 3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している ○非該当						
●あり ○なし 4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる ○非該当						
●あり ○なし 5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる ○非該当						
サブカテゴリ2(4-2)						
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている					サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
					4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている						
評価 標準項目 ●あり ○なし 1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている ○非該当						
●あり ○なし 2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している ○非該当						
●あり ○なし 3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている ○非該当						
●あり ○なし 4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している ○非該当						
カテゴリー4の講評						
変化するリスクに備えて、園として必要となる様々な対策を講じています 当園で考えるリスク管理は、その時の国や都の施策の変更点に関する経営環境であったり、季節によりリスクの優先順位は変化していくと捉えているため、虐待、災害、感染症であるなど、すべてをリスクと捉えて対策を講じています。その中で、当園は災害時に足立区の福祉避難所に指定されており、万が一の事態に備えて準備も行われています。事業継続を意識して園内のデータについてもサーバーのクラウド化を行いました。年間計画を作成して実施している避難訓練も地震、火災想定だけではなく大地震による津波浸水想定も行うなど準備に余念がありません。 今年度は「ヒヤリハットプロジェクト」を立ち上げました 園内で緊急に取り扱うべきテーマができた時は、プロジェクトチームを立ち上げアクションを起こしています。園内で発生した事故に関しては事故報告書を作成して再発防止策を打ち立てて対応がなされていますが、今年度は「ヒヤリハットプロジェクト」を立ち上げました。ヒヤリハット集を作成するなど取り組みはありますが、ヒヤリハットは読み合わせでの周知となっており、職員の認識不足を経営層は感じていました。ヒヤリハットは事故予防の観点だけではなく、リスクマネジメントの視点を持ち様々な要因を捉えて挙げていくことも期待されます。 必要に応じて専門のアカウントを設定するなど適切な情報管理が行われています 園内は無線LANシステムで情報共有がなされています。その中で、機密性があり重要なものはアクセス制限をし、給与・会計など必要に応じて専門のアカウントを設定して特定の職員のみアクセス可能な状態にして管理しています。個人情報については、個人情報保護規程に則り取り扱うことは周知され、入職時に「個人情報保護に関する誓約書」を取り交わしています。ホームページにプライバシーポリシーを掲載し外部への発信もなされています。更なる取り組みとして個人情報保護法改正後の内容と現行の規程とを照らし合わせ確認することも期待されます。						

5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1 (5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○ 非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当
カテゴリー5の講評 専門職集団によるチームアプローチは当園の特長であり強みです 当園の強みであり特長である職員構成は、PT、OT、ST、臨床心理士、臨床発達心理士、治療教育士、社会福祉士、介護福祉士、視能訓練士、児童指導員、保育士、栄養士、産業医である小児神経科医師、看護師と多くの専門スタッフを配置して子どもへの療育が行われています。部長・室長など役職者は人として上ではなく役割であり、職員はみな対等であることを経営層は伝えており、発達支援、ご家庭への支援、地域への支援という3つの視点で子どもの育ちを支えるという当園の特色は、この専門職集団によるチームアプローチで進められています。 職員が研修で得た知識を知恵に変えスキルアップを図れるよう仕組みを構築しています 職員育成は最大の課題と経営層は捉え、様々な研修機会を設けています。これまでは管理職が講師となり実施する内部研修が主となっていましたが、今年度は外部で開催している研修参加を促しています。職員の経験年数や職種を考慮して拡大サミットで受講者を選定して該当者に研修を復命しています。今年度、新たな取り組みとして、実践研究を行い発表会を行う予定です。職員が自身の実践に仮説を立てて問題意識を持ち取り組むことを意図しています。職員が研修で得た知識を知恵に変えスキルアップを図れるよう仕組みを構築しています。 職員は日常業務の中でも多くの気づきを得ることができています 上司からのスーパーバイズ、コンサルテーションによるフィードバックの他、毎日のクラスミーティングによる迅速なアドバイスなど、職員は日常業務の中でも多くの気づきを得ることができています。子どもの支援者は多職種で編成されているためお互いの専門性を発揮しつつ学びの機会にもつながっていると推察されます。今年度は職員を小グループに分けて、園長は職員とコミュニケーションを図る機会を敢えて設けています。直接顔を合わせてフランクに話せる機会を作ることで園長の考えや園の方針を伝え、職員定着にもつながるよう取り組んでいます。		

7		事業所の重要課題に対する組織的な活動	カテゴリー7
サブカテゴリー1(7-1)			
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている			
評価項目1			
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)			
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)			
2018年の制度改正、単価改正など激動期にあつて、我々自身の意識改革とサービスパラダイムの見直し、それに伴うサービスシステムの改革を加速化するため、職員においては、働き方改革を視野に入れて検討するため、年間を通じてあり方検討委員会を設置し、多角的な検討を行うこと、放課後等デイサービス、レスパイトサービス事業を廃止し、その人的余力を有効活用できる方法を模索することを目標としました。あり方検討委員会(メンバー:園長、副園長、各部長、室長 合計8名)は月に1回開催し、随時園長に内容の報告、指示を受け、セクションごとに、強みと課題、インクルーシブ保育の時代にあつての意義などの言語化と共有しました。さらにこれまでの学園における働き方改革の成果と残された課題の整理を行い取捨選択と再構築をしました。その結果、これらの検討の中で、指定日通園室においては発達支援部から地域支援部に移行する変革を、先行実施することとしました。具体的支援体制の構築までは至らなかったため、今年度は新しいプランを実施する事としました。			
目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった		
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である		
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評			
制度改正や単価改定など、目まぐるしく変化する情勢の中で、当園のみの改革だけではなく、これまでこの業界を牽引していった先駆者としての使命を果たすべく、事業計画に関する取り組みを事業報告でしっかりと分析し、翌年もしくは中期的な視点で取り組むことを整理しています。長年継続してきた事業を廃止し、実際に何を残し、何を実施しているかをあり方検討委員会にて議論し、その内容については会議録の閲覧にて職員にも伝えられています。			

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

チームアプローチを推進していく中で、職員育成は経年の課題であり、昨年度も新人職員研修会、職員研修会、ケース会議、勉強会、外部研修や、上司からのスーパーバイズ、コンサルテーションによるフィードバックの他、毎日のクラスミーティングによる迅速なアドバイスなどにて取り組みました。働き方改革の一つとして、月2回、定期退園デーを設け、職場環境を整えながら職員の自己実現も後押しできるよう取り組みました。これらの取り組みを継続するとともに、今年度は実践研究の導入、園長と職員のコミュニケーションの機会を設けるなど、職員育成と定着に向けた取り組みにつなげています。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

上司からのスーパーバイズ、コンサルテーションによるフィードバックの他、毎日のクラスミーティングによる迅速なアドバイスなど、継続して取り組んでいることが子どもの支援現場の中で活かされており、ベテランと経験の浅い職員とのペアリングでその場でもお互いの支援を確認することができる環境があります。この場面ではどのような言葉かけやアプローチが有効か、職員のスキルアップにつながる取り組みと推察されます。また、今年度は実践研究と発表会を予定しており新たな学びの場が設けられます。さらに園長自らが職員とフランクに話ができる場を設けることにより、どのような思いでこのMISSIONの遂行していくのか、職員が共通理解のもと働きやすさを感じられる職場環境の構築に取り組んでいます。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4 / 4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		○ 非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○ 非該当
●あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		○ 非該当
サブカテゴリー1の講評			
ホームページは利用者が知りたい様々な情報が提供され、きちんと管理されています 法人の成り立ちや大切にしている事、サービス内容は勿論のこと、多様な療育プログラムについての説明が表になって記載されていることで、個々のケースに適切かつ必要なサービスを考えやすい工夫されています。写真を用いることで誰でも実際の過ごし方のイメージがしやすく、知りたい情報を探しやすい配慮もなされています。行事の内容は1年を見通して確認できるため、利用を考えている保護者も現在利用している保護者にとっても安心です。さらに、英語とハングル語での表記や配布資料にはルビ付き書式も用意しています。 利用希望者は随時見学が可能、相談支援センターとの連携により丁寧に対応されます 見学者は年間100組を超え随時対応をしています。来館者案内用資料を用いて担当者が利用希望者の話を聴き、説明をしながら案内をしていきます。保健センターや病院、幼稚園、保育園からの紹介相談から見学につながる場合も多く、他機関連携が丁寧実践されているのも大きな特徴です。また、相談支援センターとの協働により、初めて福祉サービスを利用する事の戸惑いや不安を受け止めながら利用までの手順を進められることは利用者にとっての大きな安心となっています。 内外部に向けての講師派遣や講演会、各講座により積極的に情報発信に努めています 施設内の研修を一般公開にして実践研修報告会を開催することや、保護者向けにはテーマを決めた講座を開催して療育内容や子どもの様子、成長発達についての情報を発信することを積極的に行っています。また、参観日を設けて実際に療育を見てもらう機会は、子どもと職員の様子から日常生活の関りかたを一緒に考え合いたいという思いの表れです。公的機関や他施設からの外部見学者も多く来園し、学園が大切にしている事や療育を受けるまでの手順、療育内容やチームアプローチについての説明を行うことで広く理解を広げています。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	7/7
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
契約説明会には親子で参加をして、前半は説明会をして後半はお楽しみ会を行います 契約に関する説明会は、親子で参加をしてもらいます。前半では子どもは保護者と離れて職員と過ごし、保護者のみで児童発達支援管理責任者より重要事項説明書等の説明を受けて書類に署名捺印をします。そして園長から主体性を大切にしている学園の考え方について保護者全体に向けて話があります。後半には親子一緒にゲーム等レクリエーションを楽しむプログラムが行われ、緊張をほぐす為の工夫がなされています。サービス開始前には、各支援サービスごとに年間行事や持ち物等々詳細なお願い事及び説明が記載されたしおりが配布される為、安心です。 サービスの開始にあたっては受け入れの担当から連絡を取り個別に面談を行います 個別面談で用いるインテーク用紙には現在の本人の様子を詳しく確認をする事他に、成育歴や家族の状況、現在困っている事、さらに今後受けたいサービスが含まれます。様々な療育プログラムが整っている事から本人に最適な内容が提供されるように相談支援専門員との面談も行い、支援検討会議(医師、心理士、担当室長等の出席する処遇会議)にて支援内容が決定する仕組みがあります。急激な環境の変化を避ける為に、入園前の所属機関等から情報を得る事や受け入れ人数の調整や時間についても慣らしを数日行う配慮は保護者と本人にとっての安心です。 就学に向けた支援は保護者に向けたものと引継ぎ機関に向けた両面でサポートしています 就学及び転園時には、本人の現状や支援内容をまとめた資料を作成して引継ぎ先と連携を取っています。場合によっては小学校や転園先に向いて移行引継ぎを行い、本人と保護者が不安を和らげて新しい環境に慣れていく為に園でできるサポートを積極的に行います。園内の掲示板や室前のスペースを活用して、養護学校や小学校支援級についてのオープンスクールや相談会の情報を随時提供し、知りたい情報を入手しやすく整えられている事は保護者にとって心強い環境です。また、就学支援に特化した保護者向け講座や面談といった取り組みも充実しています。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し、把握している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子ども一人ひとりのニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当
評価項目2 子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画は、子どもや保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 計画を子どもや保護者にわかりやすく説明し、同意を得ている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○ 非該当
●あり ○なし	4. 計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している	○ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
●あり ○なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもに変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当
サブカテゴリ-3の講評		
支援の根拠となるアセスメントを各専門職が定期的に実施する仕組みが整っています チームアプローチは学園の支援における重要な特色です。アセスメントについても個々に必要な専門的評価を受ける事ができます。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、医師、栄養士と言った専門職がそれぞれに必要なチームを組み、アセスメントとモニタリングを定期的に行うことでチームアプローチが継続的に展開されています。各種(運動、聴覚、感覚統合、食事、視覚)評価の記録は担当職員が共有できるように共通データとして保管されている為、誰でも確認できるよう整備されている事で日々の実践にも活かされている事が大きな強みです。		
個別支援計画作成には保護者や本人の思いを丁寧に聴き取り、きちんと反映しています 日々の中から保護者との話し合いや支援及び療育の説明を丁寧に行っている為、現状についての共通理解がされています。親子通園室、月2療育については実際の様子を毎回見ていただく事で、本人の得意なことと課題となっている事を一緒に確認し協力して手立てを考えられるような働きかけを意識的に行います。また、毎日通園室でも個別療育担当者がキーパーソンとして家庭との連絡や多職種との連携などの責任を担うことで作成に向けて話し合いを丁寧に進めています。保護者にとって、安定した信頼関係の中で一緒に考えていける事は安心へとつながります。		
アセスメントや個別支援計画作成の手順等は明文化され、職員に周知されています 多職種のチームアプローチの実践により一人の利用児に対してたくさんの専門職員が関わることとなる為、記録についても様々な職員が記入をする事となります。個人ファイルの管理が煩雑にならないように「個別ファイル整理手順」がマニュアルとしてあり、個別支援計画作成についてもマニュアルが活用されています。アセスメントについては、事業計画の中で表や図を用いて明記されている事で複雑である内容を解りやすく周知されています。どの書式も学園内で共通化され、誰でも情報にアクセスしやすいことはチーム支援には重要です。		

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、子どもや保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 日常の支援の中で、子どものプライバシーに配慮した支援を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 施設内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○ 非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
ホームページにプライバシーポリシーを記載して学園の姿勢を公に表明しています 個人情報の取り扱いについては、プライバシーポリシーを定めてホームページに記載して保護者に確認をしています。また、保護者には「個人情報利用についての同意書」に署名押印して提出をしてもらい同意を書面で交わします。更に、外部機関に報告書を提出する際には改めて個人情報の「利用手順」(利用範囲)を渡したうえで同意を書面にて取り交わす対応をして許可を取ります。重要事項説明書の中でも「秘密保持」項目で明文化されています。日常の中では写真掲示の工夫及び外部からの出入りがあるイベントでも個人が特定されない配慮がなされます。 意思表示の大切さを重要に捉え、コミュニケーション支援に力を入れています 日常生活の細かなことを大人が決めてしまわず本人の意思を尊重できるような環境を整えています。例えば、食事場面では飲み物をお茶と牛乳のどちらが飲みたいかを選ぶ事ができ、パンを焼くか焼かないのかも個々に意思確認をしてから行うことがその一つです。モンテッソーリ教育の理念を基盤として子ども自身が選択して主体的に活動できる環境を整えることに力を注いでいます。その為に、言葉だけではなく子どもの声を聴くこと、あらゆる手段で個々の興味関心をつかみ子どもの気持ちを大切に支援を目指し、コミュニケーションツールを工夫しています。 子どものプライバシー保護について園全体で考える取り組みがあります おむつ替えはトイレで行う事が徹底され、各自のオムツは置き場所を工夫して他者から見えない配慮をしています。宿泊キャンプの入浴については同性介助となるように担当を割り当てる旨を実施要綱にも明記し努めています。夏季に屋上で行うプール活動の際は部屋で水遊び用の着衣に着替えるが、時間や人員の関係上で男女一緒に行われている事があり今後も更なる工夫が望まれます。さらに、職員同士の会話の内容及び声の大きさも含め園内における子どものプライバシー保護について、共通の意識を持つ取り組みが期待されます。			

サブカテゴリー6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○ 非該当	
サブカテゴリー6の講評			
利用者が安心して利用する為に必要な様々な場面のマニュアルが整備されています 虐待防止マニュアル、アレルギー児対応マニュアル、給食マニュアル、投薬マニュアル、防災マニュアル、個別支援計画作成マニュアル等各手引き書は、園長やマニュアル委員会、室長が中心となって見直しや改定が随時おこなわれています。それらは各室に一覧表が設置され、パソコン内のマニュアルファイルにて必要な時に確認できるように整備されています。日常的な詳細部分は職員同士の伝え合いによる確認で業務が進むことが多く、毎日行われる全員参加の朝礼や各会議にてその時々困りごとや変更点などの周知確認を行う事が定着されています。 保護者の声を直接届ける機会が多く用意され、日々の支援や行事に反映されています 前期と後期の療育参観後に参観の感想に保護者の意見を記入してもらう「療育アンケート」は、参観実施の保護者全員に提出をもらいます。実際の支援内容を見た上で、療育のついで希望及び要望を出してもらう仕組みになっています。また、親子通園や個別療育ではその都度振り返りを行うことにより、説明と聴き取りを丁寧に対応することで、本人の成長を実感しつつ保護者と一緒に支援の方向性を考えあうことができます。「行事後アンケート」「利用者調査」は、保護者から意見や提案を聴き取り、次の計画や事業運営や支援に反映する取り組みです。 支援の資質向上にコンサルテーションやスーパーバイズの制度が確立し活用されています 職員養成について目的や配慮点及び方法が具体的に計画されています。主体的に経験を重ねて成長していくことが根底にありながら、経験年数により年間で受ける育成プログラムが段階的に用意されている仕組みは、園全体で職員一人ひとりに応じた成長発達を支えているという表れです。コンサルテーションでは、指導的な役割を担う職員が実際の療育場面に入り保護者と担当者のやり取り及び支援について確認し、フィードバックを受ける形で進めています。困っている状況をそのままにせず経験者に助言が求められることは支援力を保ち見直す取り組みです。			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サブカテゴリ4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 26/26
1 評価項目1 個別の支援計画に基づいて子ども一人ひとりの発達の状態に応じた支援を行っている	●あり ○なし ○非該当
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 個別の支援計画に基づいた支援を行っている
●あり ○なし	2. 子どもの特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している
●あり ○なし	3. 関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって、支援を行っている
評価項目1の講評	
0歳児からの発達支援を行っており、集団療育と個別療育が行われています 早期療育という視点から親子通園では0歳児から、毎日通園は3～5歳児、その他月2通園などの通い方があります。集団療育では小集団の中でそれぞれの個性を活かしながら社会性を育むことを狙いとしています。また個別療育は発達ニーズに応じた内容で実施され、一人のお子さんにじっくり関わることでより理解を深めた療育ができる事に努めています。一か月に約4回設定されており、担任が3回、OT(作業療法士)が1回で組まれています。ケースにより担任が2回、OTが2回など「その子に何が必要か」を考えてカスタマイズして対応しています。 専門職によるチームアプローチを行っており、窓口となるキーパーソンを置いています 保育士、児童指導員、心理士、言語聴覚士(ST)、作業療法士(OT)、理学療法士(PT)、治療教育士、医師、看護師、栄養士など医療スタッフを含めた複数のスタッフが対応に関わっています。様々な専門職の併用と連携が沢山あります。専門的サービスの提供と共に、スタッフ間の気付きと築き関係構築に繋がっており、ケース会議やコンサルテーションを繰り返しながら個別支援計画を見直し対応しています。複数のスタッフが対応しているため、一人ひとりの子にキーパーソンを置き、情報管理と保護者の主たる相談相手となって対応しています。 チームで見えていくことを実現させるために、共有と理解を持って取り組んでいます 毎日通園室は子どもだけで週5日通園します。一クラスは3～5歳児の縦割編成で、11～12名の子どもたちを3人の職員で見えています。3グループ6クラスあります。それぞれの子に個別療育の担当者とキーパーソンはいますが、クラス内ではフリーでみんなを見えています。「チームで見えていくこと」を実現させるために、また職員の対応技術向上の為に人材育成の意味も含め、定期的な担任交代が行われ、あえて学級王国を作らない取り組みをされています。このスタイルにしてから「慣れた先生から離れてさみしい」というネガティブな声がなくなりました。	

2	評価項目2 子どもが食事を楽しめるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 食事時間が楽しいひとときとなるよう環境を整えている	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 子どもの状態やベースに合った食事となるよう、必要な支援(見守り、声かけ、食の形態や用具の工夫等)を行っている	○ 非該当
	●あり ○なし	3. 子どもが安全に食事をとれるよう取り組みを行っている	○ 非該当
	●あり ○なし	4. 食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している	○ 非該当
	●あり ○なし	5. 食についての関心を深めるための取り組みを行っている	○ 非該当
	●あり ○なし	6. 子どもの状況をふまえ家庭での食事について助言を行っている	○ 非該当
	評価項目2の講評		
	食事は子どもたちにとって楽しい時間であることを大切に様々な工夫をしています 食事は生活の中での重要な位置づけとして考えられており、子どもたちにとって楽しい時間であることを大事に関わるようにしています。苦手な食べ物などは一口は食べてみるように心がけていますが、偏食については偏食という見方だけでなく、発達検査を含めたトータルで見えていくようにしている為、偏食指導については食事が嫌な時間になってしまわないように強引にはおこなっていません。その他、楽しい食事の環境や雰囲気作りとして、食卓に花を飾ったり、当番活動を取り入れています。椅子もOTPTによる手作りで姿勢が保たれる工夫がされています。 食物アレルギー、離乳食などは学園独自の対応レベルがあり、丁寧に対応しています アレルギーについては、入所時に診療所にてアレルギー調査を実施しています。医師と保護者で状況を確認し、その上で再度学園独自のアレルギーレベル(各クラスで把握するレベル、学園内での対応を検討するレベルなど)を設定して対応しています。毎朝の朝礼でメニュー確認をし、職員全員が情報共有ができるように定めています。アレルギー食材の除去は対応していますが、代替えは対応していません。離乳食や食形態も細かく分けられており、初期、中期、後期、普通食も4パターンがあり、ご飯も粒あり、粒なしなど細かく対応しています。 療育に食材を取り入れ、食への関心を高めています 献立には旬の食材を多く取り入れ、「初物は学園で食べる」という思いで給食提供に力を入れています。季節の食材は実際に子どもたちと触れるようにし、枝豆のさや剥きやニンジン皮をピーラーでむく、クリスマスには粉をこねる所からクッキー作り等もおこないました。また視覚でも分かりやすいよう果物カードを使ったり、子どもたちと厨房に食材を聞きに行き、見せてもらったり、玄関に葉付きの柚子を展示するなど、食材や食事への関心が広がるような取り組みがあります。また毎月献立委員会を開き、現場職員の意見を給食内容に反映させています。		

3	評価項目3 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている 評点(〇〇〇〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている	○ 非該当	●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている	○ 非該当	●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○ 非該当	●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○ 非該当	●あり ○なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	○ 非該当
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 身の回りのことは自分で行えるよう、必要な支援を行っている	○ 非該当																	
●あり ○なし	2. 基本的な生活習慣や社会生活上のルール等（あいさつ、マナー、交通ルール等）を身につけられるよう支援を行っている	○ 非該当																	
●あり ○なし	3. 集団活動を取り入れるなど、子どもの心身の発達や社会性が育つよう支援を行っている	○ 非該当																	
●あり ○なし	4. 一人ひとりの有する能力を活かせるよう個別のプログラムを実施している	○ 非該当																	
●あり ○なし	5. 送迎は、子どもと保護者等の状況に応じて送迎方法を検討し、行っている	○ 非該当																	
評価項目3の講評 毎日通園室では姉妹保育園と日常的なインテグレーション(統合交流)を行っています 毎日通園室はクラス11-12名の縦割編成で、3-5歳児の子どもたちが同じ部屋で過ごしています。姉妹保育園うめだ「子供の家」も同じく縦割り保育を行っています。姉妹クラスが設けてあり、週に1度行き来する日常的な交流を行っています。年間計画を立てお弁当会や遠足、キャンプなどの行事も一緒に行っています。インテグレーションが苦手な子もありますが、「触れている」からそれでよしとしています。子どもにとっても大人にとっても「自分と相手を理解する」きっかけになることを大切に、地域の中で子ども達が育つことを支えています。 週に一度、個別療育の時間を設けています。保護者との情報共有の大事な時間です 毎日通園室も親子通園室もどちらに通うお子さんにも集団(グループ)療育と合わせて個別療育の時間を45分間設けています。個別療育では遊びを通して認知、運動、作業療法、感覚統合など一人ひとりの発達ニーズに応じた療育内容が実施されています。個別療育の時間は子どもの発達支援と合わせて保護者支援の場、コミュニケーションの場にもなっており、家庭での様子を伺い、困りや相談ができる場であり、家庭での関わり方や情報提供などが丁寧に行える時間になっています。保護者と支援の方向性を確認した上で一緒に個別支援計画を立てています。 毎日通園室では個性を活かしながら社会性を育めるように活動が組み立てられています 通園時間の中には、一人ひとりの活動を保障する「自己活動」の時間と、友達と活動を共にする活動の場面があります。活動の合間で「おあつまり」の時間が組まれ、挨拶や出席確認、季節の歌、順番のある遊びなどを先生や友だちと一緒にすることを取り入れています。そうした関わりの中で当番活動では自分の役割が分かり、張り切って向かう子どもの姿やできた喜びの表情が見られ、社会性の芽が育まれていることが感じられます。またやりとりで「ノー」が言えることの大切さも押さえながら子どもが意思表示ができるように関わるようにしています。																			
4	評価項目4 子どもの健康を維持するための支援を行っている 評点(〇〇) <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している</td> <td>○ 非該当</td> </tr> <tr> <td>●あり ○なし</td> <td>2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている</td> <td>○ 非該当</td> </tr> </tbody> </table>	評価	標準項目		●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○ 非該当	●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○ 非該当									
評価	標準項目																		
●あり ○なし	1. 子どもの健康状態について、保護者や医療機関等から必要な情報を収集している	○ 非該当																	
●あり ○なし	2. 子どもの状態に応じた健康管理を行い、体調変化に速やかに対応できる体制を整えている	○ 非該当																	
評価項目4の講評 医師による健康診断があり、鼓膜検査と屈折検査を全園児に実施しています 年に1回医師による健康診断が実施されています。また年に2回の鼓膜検査と年に1回の屈折検査は全園児対象に実施しており、これは学園独自の対応で、長年の経験と実績から実施を取り組まれているものです。低月例児は自分から耳が痛いとはなかなかいいません、定期的な検査を実施することで早い段階で変化に気づくことができます。ダウン症の子の眼合併症など早期に対応することができた実績もあります。必要に応じて保護者や担当職員が医師や看護師に相談もできます。 感染症情報は提示の仕方を工夫し、また感染拡大防止対策にも努めています 足立区感染症サーベランスに基づき、感染症情報を提供しています。感染症発生時には、玄関に感染症罹患状況を提示し、保護者に通知しています。情報提示の仕方についてもわかりやすい工夫がなされており、感染症の種類、発症人数、治癒人数等が一目でわかるような表になっています。学園玄関に提示すると同時にバス通園の保護者にも情報が伝わるよう、バスにも掲示するように配慮されています。また感染症拡大防止として、職員が感染源にならないように、手洗いやうがいの仕方を職員間で学んだり、療育の現場に持ち込まないことを徹底しています。 診療所が併設されており、医師、看護師と日常的に連携できる環境が整っています 毎日通園室と親子通園室には医師や看護師の回診があります。医療スタッフが常時滞在していることで、日常的に関わってもらえる安心感があります。日々、職員も保護者と連携を取り、園児の健康状態の把握には努めていますが、緊急時の対応ができる環境が整っていることは、安心して支援ができることに繋がっています。医師が集団療育の場に参加し、保護者と話し合ったり、情報提供する場を設けることもあり、家族の相談にも対応しています。現在看護師職員は1名のため、もっと人員を増やしたいと考えています。																			

5	評価項目5 子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるような取り組みを行っている			評点(〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 日常生活の支援は子どもの主体性を尊重して行っている	○ 非該当	
	●あり ○なし	2. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○ 非該当	
●あり ○なし	3. 子どもの状況や希望に沿って、多様な体験ができるようにしている	○ 非該当		
評価項目5の講評				
様々なツールを用い、子どもの意思確認をし、主体性を尊重して関わっています 毎日通園室での当番活動には①鐘を鳴らす当番②人数を数える当番③給食のワゴンを下げる当番④お便り帳を返す当番などがあります。子ども達にどんな当番(役割)があるかを説明して、やりたいものを聞き、自分でやりたいものを選択できる(立候補)形で当番を決めています。職員は常に子ども達に分かりやすいようシンプルで丁寧な言葉を遣い、話しています。また写真や絵カードでの提示も用いながら子ども達が自分の意思で選択できるように関わっています。やりたくないという意思表示が見受けられる子には「また今度」と無理には進めていません。 モンテッソーリ教育法をベースに、一人ひとりの個性と主体性を大切に関わっています 子ども達の個性と主体性(自発性、自己判断力、自己決定力)を育てるために、子どもが過ごす環境作りに力を入れています。毎日通園室では感覚教具を中心に子どもたちが安定した生活リズムの中で自発的な活動を育めるように生活環境を整えています。どのクラスも同じ環境にしていますが、クラスの子ども達に合わせた工夫もなされています。日常生活活動を大事にし、生活や身の回りに必要な準備や片付け等はなるべく自分で行えるように機会を設けています。インテグレーションの際も見慣れた物(教材)があり、安心して行動ができるよう配慮しています。 散歩などの園外活動の取り組み方に、改善の必要性を感じています 散歩は2グループ毎に出かけています。散歩や園外活動の機会を持つようにしていますが、活動時のクラスの人数が多いとも感じています。その為散歩がイベント的になってしまい、日常的に出かける難しさを感じています。散歩や園外活動から得られる体験、季節感、風を感じる体験など子どもたちには必要な体験であり、また家庭では連れ出すことが難しい環境も考慮し、ここでしかできない必要な体験と考え改善したい点と受けとめています。子ども達に手と目を掛けられる人員配置で、様々な活動や体験の幅を広げられるよう定員変更を予定しています。				
6	評価項目6 家族との交流・連携を図り支援を行っている			評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目		
	●あり ○なし	1. 子どものサービス提供時の様子や家庭での普段の様子を家族と情報交換し、支援に活かしている	○ 非該当	
	●あり ○なし	2. 家族の意見や要望を活かした支援を行っている	○ 非該当	
	●あり ○なし	3. 家族の状況に配慮し、相談対応や支援を行っている	○ 非該当	
	●あり ○なし	4. 子どもや家族に合った療育方法等について助言している	○ 非該当	
評価項目6の講評				
父母の会やおやじの会などの保護者同士の交流の場があります 父母の会は主に学園の現役保護者で構成されています。おやじの会は保護者OBによる集まりで、学園の外の団体になりますが、特別支援学校のつながりから学園との関係と歴史は深く、フェスティバルでの模擬店や遠足などの行事を手伝っていただいています。区内で遊びの広場を開いたり、父親が子育てに出て行くことの大切さを示してくれています。活動は主に飲み会のようですが、父親同士、家族や療育の場では出てこない話ができる大事な場所になっています。またピアサポートができる保護者同士の貴重な関係です。 学園の役割は、保護者にとって便利な施設にならないこと、と心得ています 学園はご家族とお子さんに必要な支援をする為に、専門的な知識と助言、情報提供を行います。ですが子育てにおいて、子どもと家族の為に不便さは必要だと考えています。色々な家族状況や背景がありますが、ご家族と一緒にお子さんの様子を共有し、協力、協同しながらお子さんの育ちを支えるという形を大事にしたいと考えています。その取り組みとして、学園に来ていただく機会を作るようにし、水曜日はバス送迎はなく、全員お迎えにしています。個別療育は保護者同席で行うこととしています。便利な施設でなくてよい事が学園の役割だと確認しました。 保護者向けの勉強会として「ぶちひろば」を開催しています 保護者向けの勉強会を年15回計画しています。内容は「感情の育ち」「トイレの自立」「手の操作」「就学準備」「区内特別支援学校の見学」など、学園から発信したいテーマを中心に挙げています。平日の日中に開催されている為、保護者が送迎後に参加しやすい時間帯で組まれています。その都度案内を出し、関心のある人が参加するという形をとっています。地域ネットワークの一つとして近隣5校にも案内を出しています。保護者同士の交わりの場になっています。また月一回チャプレンの神父さんが来園し、保護者と話しをする機会があります。				

7	評価項目7 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 地域の情報を収集し、子どもの状況に応じて提供している	○ 非該当
	●あり ○なし	2. 必要に応じて、子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるよう支援を行っている	○ 非該当
	●あり ○なし	3. 地域全体の在宅障害児や関係機関等を対象に、施設・設備や人材・プログラムを有効に活用した支援を実施している	○ 非該当
評価項目7の講評			
毎日通園室の年長児は保護者と離れ、3泊4日のキャンプに出かけます 夏に療育プログラムの一つとして、またインテグレーションの一貫として、3泊4日のキャンプを実施しています。毎日通園室の年長児26名うめだ「子供の家」の年長児6名が秦野にある上智大学のクラブハウス合宿所で一緒に過ごします。山、海、川、スイカ割、など自然に触れさせたいという思いと、保護者と離れて過ごすという目的の元、毎年実施されています。1泊だと案外と乗り超えられてしまう状況を踏まえ、あえて3泊としたことで、保護者と子どもがお互いに大事な存在だという認識をしてもらう機会になっています。 様々な想定での訓練を実施し、地域との連携の形を考え取り組んでいます 日常の地震や火災といった消防訓練の他に、不審者対応訓練、搜索訓練やお迎え訓練等を実施しています。通常の避難訓練は月に1回実施しており、保護者も一緒に行うこともあります。搜索訓練では、「学園内で園児が居なくなった」という想定や、「家から居なくなった→学園に向かう可能性があるかもしれない」というような想定で職員の体制を考えたり、搜索中の学園との連絡の取り方を確認したりする大人だけで行う訓練を行っています。近隣施設や警察署に訪問にいくなどして学園の子ども達のことを知ってもらうことにも努めています。 一人で抱え込まず、学園、地域、保護者含め全体でどう取り組むかを考えています 療育や子どもへの支援は学園だけで完成するものではありません。事業所や関係機関としっかり連携をとり、また保護者や地域も含め、全体でどう取り組んでいくかという視点に立ちチームアプローチのとらえ方を広げています。地域や機関からの情報が入りやすい施設の強みを生かし、それぞれが役割分担を考えよりよい支援につなげていくことを目指しています。学園で行っているインテグレーションの効果について保護者にも説明し、家族を含めた交流会や行事の保護者参加など、子どもだけでなく広い視野でのインテグレーションの実施を計画しています。			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-4	子どもの健康を維持するための支援を行っている
タイトル①	食物アレルギーは、入所時に学園診療所で再診断を行い、丁寧な確認の元実施されます。	
内容①	入所前の食物アレルギー診断は各家庭により医療機関様々という状況です。食物アレルギー児の受け入れに当たって丁寧に対応するため、入所時に学園の診療所にて再度アレルギー診断を実施しています。医師と保護者で状況を確認し、その上で学園独自のアレルギーレベルを設定して対応しています。診療所があることで医師から直接確認ができ、連携を取りながら対応することができています。毎朝の朝礼でメニュー確認をし、職員全員が情報共有ができるように定めて対応し、安全な食事がとれるように取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-7	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	共通のコミュニケーションシンボルの作成する取り組みを継続的に行っています	
内容②	子どもの仕草や様子から意思を読み取りながら興味及び関心をつかむインリアルアプローチを職員が学び、子ども一人ひとりの意思を大切に日々の支援を進めています。子どもとのやり取りでは言葉と同時にマカトンサインを用いて語り掛ける事と、場合によっては視覚による情報提供を日常的に取り入れています。また、子ども自身が伝えられる手段を工夫することに力を注いでいます。園の取り組みを地域に広げる観点から、地域で安心して生活する事ができる取り組みとして、共通のコミュニケーションシンボルを作成することに継続して取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-6	家族との交流・連携を図り支援を行っている
タイトル③	サマーキャンプは親子共に自立に向けた大きなきっかけとなる取り組みです	
内容③	同法人経営の近隣にある保育園と日常の中での交流があり、新入園児が新しい生活に慣れた頃から年間を通して週に一回、それぞれの施設で行われています。開始前には保護者に対してインテグレーションの説明会を行い、ねらい及び期待される効果について理解を得てから始まります。夏には互いの年長児を対象にしたサマーキャンプが3泊4日かけて行われています。このサマーキャンプは30年の歴史ある取り組みです。1泊ではなく3泊という日数を保護者と子どもが離れて過ごす事は親子共に自立に向けた大きなきっかけとなる取り組みです。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	児童発達支援の先駆者としての誇りと使命はぶれることなく、「今」のニーズや状況に合わせた経営が行われています
	内容	「子ども一人ひとりが、かけがえのない命として誰からも愛され、尊重され、大切に育まれていくことを願いながら、家庭の子育てに寄り添った各種支援を各種専門職による学際的なチームアプローチの実践をpassion（パッション）の内に展開することをそのmission（ミッション）としています。」とホームページの冒頭に記載され、事業計画書の前文にも毎年同じ言葉で当園の理念、方針を発信し続けています。児童発達支援の先駆者としての誇りと使命はぶれることなく、「今」のニーズや状況に合わせた経営が行われています。
2	タイトル	キーパーソンを中心とし、専門職によるチームアプローチで一人ひとりの支援を行っています
	内容	子供を中心という理念のもと、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理士、視覚担当、児童指導員、保育士、モンテッソーリ教師、社会福祉士、ケースワーカー、栄養士、医師、看護師、事務関係者など多種多様な専門スタッフによるチームアプローチを展開しています。様々な専門職の連携が沢山あり、専門的サービスの提供と共に、すべての職種が対等に意見を出し合いながら、専門的な視点で支援方法や支援計画を見直し、検討を重ねています。その子どもにとって最も必要とされるチームを組んで支援に関わることでより良い発達支援を提供しています。
3	タイトル	個別療育では「その子に何が必要か」を考え、最も必要な専門スタッフの療育回数をカスタマイズしながら支援を行っています
	内容	一人ひとりに応じた支援を「集団療育」と「個別療育」で支援しています。利用しているすべての子どもに対して個別療育は週に1回ずつ行われ、その子の発達ニーズに応じた発達支援内容で実施されます。一人のお子さんにじっくり関わることでより理解を深めた療育ができる事に繋がっています。主にキーパーソンとなる担当者が個別療育を担当しますが、半年に一度見直しをしながら、「今、その子に何が必要か」を考えながら、作業療法士（OT）や言語聴覚士（ST）などの回数を調整するなどカスタマイズし、より良い支援を提供しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	単年度の事業計画には随所に中期的展望が盛り込まれているため、中期的展望と今年度の重点目標を分かりやすく整理することが期待されます
	内容	事業計画策定の流れは、園長、部長、室長で構成するあり方検討委員会にて数年先を見据えた事業構想を検討、確認した上で単年度の事業計画の重点課題を設定し、各部にて実行計画が策定され事業計画が作成されています。単年度の事業計画には随所に中期的展望が盛り込まれているため、これらを整理することで当園全体の中期的な展望が何か、各部においてこの中期的展望を基に今年度何に重点的に取り組む必要があるのかを抽出しやすくなることも推察されます。より職員の共通理解が深まるよう工夫することが期待されます。
2	タイトル	ヒヤリハットはリスクマネジメントの視点を持ち様々な要因を捉えて挙げていくこと、事故の再発防止策実施後の検証が期待されます
	内容	これまでの取り組みとして朝礼でヒヤリハットは読み合わせを行い、「ヒヤリハット集」を作成し全職員に配布するなど、多くの気づきを共有する機会と検討を重ねてきました。今年度は「ヒヤリハットプロジェクト」を立ち上げ、職員の意識向上を図るべく取り組みを開始しました。今後の更なる取り組みとして、ヒヤリハットは事故予防の観点だけではなく、リスクマネジメントの視点を持ち様々な要因を捉えて挙げていくこと、また、事故報告書に記載した再発予防策実施後の検証も行うなど、深化していくことが期待されます。
3	タイトル	職員同士の会話の内容及び声の大きさも含め、職場内のルールなど今一度確認し合う機会を持つことも期待されます
	内容	入職時研修にて法人の規程類についても説明を受け、個人情報保護に関する知識も得ています。また虐待防止への取り組みとして、マニュアル内には、「もしこう思ったら」に対し「このように考えてみる」というQ&Aも掲載して職員が共通理解のもと子どもの支援にあたるよう仕組みを整えています。しかしながら、職員同士の会話の内容及び声の大きさも含め、まだ、改善の余地はあると推察されます。職場内のルールなど今一度確認し合う機会を持つことも期待されます。